

ルーマニア月報

2026 年 5 月号

本月報はルーマニアの報道等をもとに、
日本大使館がとりまとめたものです。

令和 8 年 6 月 12 日
在ルーマニア日本国大使館作成

主要ニュース

【内政】

- 5 月 5 日、PSD・AUR・PACE の共同提出によるボロジアン内閣への不信任決議案が可決。
- 5 月 22 日、主要 4 政党（PSD、PNL、USR、UDMR）が、国家復興強靱化計画（PNRR）の最重要条件の新公務員給与統一法案を今議会期末までに採択することで政治合意。
- 6 月 4 日、憲法裁は AUR 議員ら 53 名が提訴した SAFE 関連法制を合憲と判断した一方、PSD は政府権限を巡る別件の提訴を継続し、SAFE 活用を巡る政治論争が継続。

【経済】

- 5 月 6 日、不信任決議が可決した政治的混乱を背景に、ルーマニア・レイは対ユーロで 1 ユーロ = 5.268 レイという史上最高値を更新。
- 5 月 21 日、欧州委員会はルーマニアと欧州安全保障行動（SAFE）協定を締結、166.8 億ユーロの融資を防衛・インフラに。
- 5 月 22 日、欧州委員会はルーマニアの 2026 年経済成長率予測を 0.1%に大幅下方修正。

【外政】

- 5 月 13 日、ブカレストで開催された B9 サミットでダン大統領は、米軍のルーマニアへの追加駐留を歓迎する意向を示すとともに、ウクライナとのドローン共同生産への自信を表明。

【防衛・安全保障】

- 5 月 29 日、ロシアの「ゲラン 2」型無人機がルーマニア領空を侵犯し、ガラツィ市内の集合住宅の屋上に墜落、2 名が負傷。

【我が国との関係】

- 5 月 13 日、片江大使は国際展示会「BSDA2026」（（黒海防衛・航空宇宙・安全保障国際展示会）での日本企業ブースを訪問。
- 5 月 18 日、片江大使は、ディミアン教育・研究相を表敬訪問。
- 5 月 26 日、片江大使は WHO ルーマニア及び Good Neighbors Japan による共同事業のキックオフミーティングへ出席。

内政

● ボロジャン内閣に対する不信任決議案可決

- 5月5日、PSD（社会民主党）、AUR（ルーマニア人統一同盟）及び PACE（「平和—ルーマニア第一」議会会派）が共同提出したボロジャン内閣（PNL）に対する不信任決議案が可決（賛成 281、反対 4、無効 3、過半数 233）。ボロジャン内閣は退陣することとが、憲法に基づき新内閣発足まで暫定内閣として職務を継続。ダン大統領は新首相候補の選定作業に着手。
- 政権崩壊に伴う政治混乱を受け、5月9日に予定されていた大統領府での「欧州の日」レセプションは中止。メツォラ（Roberta Metsola）欧州議会議長の公式訪問も延期。

● SAFE（欧州安全保障行動計画）を巡る論争

- 6月4日、憲法裁判所は、AUR 系議員ら 53 名が提起した SAFE 関連緊急政令への違憲申し立て請求を棄却し、SAFE 資金活用の法的基盤は合憲と判断。
- 他方、グリーンデアヌ PSD 党首は、不信任決議後のボロジャン内閣が SAFE 関連の緊急政令を採択したことの合憲性を提起しており政治的論争自体は継続中。
- 合憲性が担保されれば、ルーマニアは 2030 年までに総額約 166 億ユーロを活用できる見通し。資金は国内軍需生産、防空、ヘリ、レーダー、対ドローン装備、ウクライナ・モルドバ方面との輸送インフラ等に活用される見込み。

● 公共部門統一給与法

- 5月22日、大統領の仲介を経て、連立崩壊後も主要 4 政党（PSD、PNL、USR、UDMR）が、国家復興・強靱化計画（PNRR）の最重要条件である新公務員給与統一法案を今議会期末までに採択する政治合意に署名。期限までに成立しなければ EU 資金約 7 億ユーロを失う可能性あり。
- これを受けて、労働省は法案草案を公表。8月31日までの成立を目指し、関係団体との協議を開始。しかし、警察・医療・教育分野の労組から反発が出ており、今後の議会での審議が焦点。
- 法案は 2027 年 1 月 1 日の全面施行を予定しており、公務員給与体系の一本化、各種手当の大幅削減（151 種類中 87 種類を廃止）、手当総額の上限設定などを柱とする。

● 世論調査の結果

- INSCOP（調査実施期間 5 月 11 日～5 月 14 日、対象者：不明、統計上の誤差：±3%）
政党支持率 AUR 38.2%、PNL 20.3%、PSD 17.5%、USR 10.0%、UDMR 5.0%、SOS 2.9%、SENS 2.5%、POT 1.9%
- ボロジャン政権崩壊後、PNL が PSD を逆転して第 2 党となり、PSD は支持率低下が続く一方、AUR は引き続き最大勢力を維持。

【政党略称】PSD：社会民主党、PNL：国民自由党、AUR：ルーマニア人統一同盟、UDMR：ハンガリー人民民主同盟、USR：ルーマニア救国同盟、POT：青年党、PUSL：社会自由ヒューマニスト党、AFD：右派の力連合、SENS：健康・教育・自然・持続可能性党、PACE：議会会派「平和—ルーマニア第一」（主に SOS・POT 離脱議員らによる極右会派）

経済

(1) 主要経済統計とりまとめ（国家統計局、財務省、ルーマニア中央銀行 発表とりまとめ）

● 国家統計局（INS）

	2025/9	2025/10	2025/11	2025/12	2026/1	2026/2	2026/3
貿易収支（億€）	-244.92	-274.93	-297.702	-327.431	-23.255	-47.616	-77.042
消費者物価指数(%)	9.88	9.76	9.76	9.69	9.62	9.31	9.87
失業率（%）	6.0	6.1	6.3	6.1	6.0	6.0	6.1
平均グロス給与（€）	1,816	1,830	1,874	1,973	1,844	1,854	1,980
平均ネット給与（€）	1,089	1,098	1,123	1,183	1,103	1,111	1,187

● 財務省（MF）

	2025/9	2025/10	2025/11	2025/12	2026/1	2026/2	2026/3
財政収支（億 lei）	1024.738	1088.689	1217.742	1460.332	8.451	142.326	210.946
GDP 比（%）	-5.39	-5.72	-6.40	-7.65	-0.04	-0.7	-1.03

● ルーマニア中央銀行（BNR）

	2025/9	2025/10	2025/11	2025/12	2026/1	2026/2	2026/3
政策金利（%）	6.50	6.50	6.50	6.50	6.50	6.50	6.50
外貨準備高（億€）	650.15	653.47	654.08	648.00	658.12	650.23	670.32
経常収支（億€）	-222.75	-246.36	-271.40	-301.27	-9.77	-31.91	-53.38
前年同期（億€）	-205.15	-236.44	-260.60	-288.53	-10.32	-36.38	-61.53
FDI（億€）	56.47	72.37	75.87	81.53	4.29	11.28	11.30
前年同期（億€）	49.64	56.25	53.58	56.02	4.17	8.54	16.35
前年同期比（%）	+13.75	+12.73	+42.00	+45.54	+2.88	+38.08	-30.88
中長期対外債務（億€）	1740.27	1776.17	1785.99	1794.31	1817.19	1825.19	1828.47
前年末比（%）	+11.3	+13.6	+14.2	+14.8	+1.3	+1.2	+1.4
短期対外債務（億€）	472.56	479.71	489.13	479.16	476.14	474.44	486.78
前年末比（%）	+0.2	+1.7	+3.7	+1.6	-0.6	-1.5	+1.1

● 消費者物価指数（国家統計局（INS）・ユーロスタット）

	2025/9	2025/10	2025/11	2025/12	2026/1	2026/2	2026/3
消費者物価指数(%)	9.88	9.76	9.76	9.69	9.62	9.31	9.87
食料品価格(%)	7.86	7.57	7.64	7.75	7.86	7.89	7.67
非食量品価格(%)	11.09	10.96	10.73	10.48	9.99	9.41	10.89
サービス価格(%)	10.36	10.52	10.99	11.00	11.59	11.37	11.05
ユーロ圏平均	2.2	2.1	2.1	1.9	1.7	1.9	2.6
EU27 カ国平均	2.6	2.5	2.4	2.3	2.0	2.1	2.8

● 業種別（前年同期比）（国家統計局（INS）・ユーロスタット）

	2025/9	2025/10	2025/11	2025/12	2026/1	2026/2	2026/3
鉱工業							
工業生産高（%）	0.2	0.2	-0.5	1.6	-3.8	-1.5	-2.2
工業売上高(名目)（%）	7.1	1.6	-0.4	-6.1	-4.3	-2.5	-0.1
工業製品物価指数（%）	6.1	8.0	4.8	6.0	7.8	3.0	7.0
新規工業受注高(名目)（%）	9.3	1.9	-4.1	9.5	-5.3	-3.2	0.0
小売業							
小売業売上高(除:自動車・バイク)（%）	-1.9	-4.0	-4.0	-2.0	-6.5	-6.2	-3.2
自動車・バイク売上高(%)	3.3	-0.8	5.1	6.7	-0.3	2.7	2.7
小売業売上高 ユーロ圏平均(%)	1.0	1.5	2.3	1.3	2.0	1.7	1.2
小売業売上高 EU 平均(%)	1.3	1.6	2.3	1.7	2.3	1.7	1.9
建設業							
工事(%)	4.7	13.3	-0.4	3.8	-0.9	13.8	9.0

(2) 主要経済関連ニュース

● ボロジャン内閣不信任後、ルーマニア・レイが史上最安値を更新

- 5月6日、ボロジャン内閣への不信任決議が可決した政治的混乱を背景に、ルーマニア・レイは対ユーロで1ユーロ＝5.268レイという史上最安値を更新した。2026年初頭まで5.09レイで安定していたが、4月後半からの政治危機を契機に急落。対ドルでも下落が続いており、金融市場の不安定さが顕著となっている。

● ルーマニアの2026年4月インフレ率、10.7%に急上昇

- 5月13日、国家統計局は、ルーマニアの2026年4月のインフレ率は10.7%に達し、9%超が8カ月連続で続いた後にさらに加速した旨を発表した。サービス価格が13%と最大の上昇幅を示し、非食料品が12%、食料品が7.39%上昇した。

● ルーマニア中央銀行、政策金利を6.5%に据え置き

- 5月15日、ルーマニア中央銀行は理事会において政策金利を年6.5%に据え置くことを決定した。同金利は2024年8月から変更されておらず、高インフレと政治的不安定が続く中での据え置き判断となった。

● フィッチ、政治不安・PNRR改革遅延・外部圧力のリスクを警告

- 5月19日、格付け機関フィッチ・レーティングスは、ルーマニアに関する分析を公表し、政治的不安定、国家復興強靱化計画の改革遅延、外部経済圧力に関するリスクを強く警告した。2026年第1四半期の財政赤字はGDPの約1%と前年比ほぼ半減したものの、2027年以降の財政戦略の予測可能性が欠如していることが最大のリスクだとしている。

● 欧州委員会、ルーマニアの2026年経済成長率予測を0.1%に大幅下方修正

- 5月21日、欧州委員会は、ルーマニアの2026年GDP成長率予測を以前の1.1%から0.1%へと大幅に引き下げた。インフレ率予測も6%未満から7%に上方修正され、財政赤字はGDP比6.2%、債務残高は2027年までにGDP比63.3%に達すると見込んでいる。地政学的リスクと国内政治の不確実性が民間投資を圧迫していることが主因とされている。

● ルーマニア中央銀行、2026年6月のインフレ率を10.3%、12月を5.5%と予測

- 5月27日、ルーマニア中央銀行は5月15日の理事会議事録を公表し、年間インフレ率が2026年6月に10.3%、12月に5.5%に達するとの新たな予測を示した。これは従来予測の9.8%・3.9%から大幅に悪化したものであり、中東情勢による燃料価格の急騰、天然ガス市場の自由化、基本食料品への価格上限撤廃などが主な要因とされている。インフレが目標レンジ内に戻るのは2027年第3四半期になると予測されている。

(3) エネルギー関連ニュース

- **ドイチェシュティ SMR プロジェクトに米国から 65 億ドル超の資金支援**
 - 5 月 4 日、ルーマニアのドイチェシュティで開発中の小型モジュール炉プロジェクトに対し、米国輸出入銀行が約 56 億ドル、米国国際開発金融公社が最大 20 億ドルの融資意向を示した。同プロジェクトは NuScale Power 技術を採用し、欧州初の SMR として 462MW の設備容量を持つ計画である。いずれも正式決定ではなく、デューデリジェンスの完了が条件となっている。
- **ユーロスタット、2025 年下半期にルーマニアの非家庭用電力価格が EU 最大の上昇率を記録**
 - 5 月 8 日、ユーロスタットは、2025 年下半期の EU における非家庭用電力平均価格は 100kWh 当たり 18.37 ユーロだった旨報告した。18 カ国で価格が下落した一方、ルーマニアは前年同期比 15.4%増と EU 内で最大の上昇率を記録した。スウェーデン、ブルガリア、ベルギー、スロバキアも上昇した 5 カ国に含まれている。

(4) その他トピックス

- **ルーマニア、OECD 加盟審査で 25 委員会中 24 を通過**
 - 5 月 6 日、ニクレスク外務次官はルーマニアが OECD 加盟審査において 25 委員会中 24 委員会で審議を完了し、2022～2023 年に交渉を開始した 8 カ国の中で首位に立つと発表した。財政委員会、金融市場委員会、投資委員会など特に厳格な委員会も含まれており、加盟まであと一段階となっている。
- **三海域イニシアティブ投資ファンド、ルーマニアの GDP に 18 億ユーロの波及効果**
 - 5 月 12 日、三海域イニシアティブ投資ファンドは、同ファンドがルーマニア経済に約 2.55 億ユーロの投資をもたらし、2020～2035 年の累積 GDP 効果は 18 億ユーロと推計される旨発表した。ルーマニアが拠出した 2000 万ユーロが 2.55 億ユーロの資本を呼び込んでおり、ファンドは現在エネルギー、デジタルインフラ、輸送など戦略分野の企業 5 社を支援している。
- **ラブラ・プログラム、EU 諸国および協定国の車両購入に限定へ**
 - 5 月 21 日、ブゾイアヌ環境・水利・森林相は、新たなエコカー補助金「ラブラ・オート」プログラムを 3 億レイの予算で開始する旨発表した。今回、EU および EU と協定を結ぶ国で製造された車両への購入限定が検討されており、競争評議会は原則として条件を満たす可能性があると回答している。最終的な詳細はルーマニア経済・デジタル化・起業・観光省への確認後に決定される予定。
- **欧州委員会、ルーマニアと欧州安全保障行動（SAFE）協定を締結、166.8 億ユーロを防衛・インフラに**
 - 5 月 21 日、欧州委員会はルーマニアとの SAFE ローン協定の調印手続きを完了した。ルーマニアは EU 内でポーランドに次ぐ第 2 位となる 166.8 億ユーロの融資枠を確保し、防衛装備・軍事技術・戦略的インフラへの投資に充当される。うち約 42 億ユーロは国家的な道路輸送インフラ整備に割り当てられている。
- **クルージュ県で世界初の量子 AI 搭載データセンター建設へ**
 - 5 月 27 日、アブルデアン上院議長は、米国のテクノロジー企業 DriverAI がルーマニアのクルージュ県ルナ村で量子人工知能を搭載した世界初のデータセンターを建設する計画を明らかにした。総面積 20 ヘクタールにわたる 4 フェーズの計画で、第 1 段階への投資額は 10 億ドルとされている。ルーマニアを欧州の先端技術拠点として位置づけることが期待されている。
- **ルーマニア政府、モルドバ共和国との戦略的輸送インフラ整備に関する覚書を承認**
 - 5 月 28 日、ルーマニア政府はモルドバ共和国との間で、ウンゲニ・ウンゲニ国境橋を含む戦略的輸送インフラの整備・管理に関する協定交渉と調印を承認する覚書を可決した。EU 規則 2025/1106 の SAFE に基づく投資実施のための法的・財政・制度的枠組みを設けるものであり、2022 年の既存協定を更新するものとなっている。

外政

● B9 サミット ダン大統領が米軍追加駐留を歓迎、NATO 東側防衛の強化を訴える

- 5月13日、ブカレストで開催された B9 サミットでダン大統領は、米軍のルーマニアへの追加駐留を歓迎する意向を示すとともに、ウクライナとのドローン共同生産への自信を表明した。共同議長のパーランドのナブロッツキ大統領は両国が NATO 東側側面における最重要拠点である旨述べた。参加国首脳はロシアを最大の安全保障上の脅威と位置づける共同声明に署名し、今年のアンカラ NATO 首脳会合に向けた準備を確認した。ダン大統領はゼレンスキー大統領とも二国間協議を行い、貿易、エネルギー安全保障、防衛イノベーションなどの分野での戦略的パートナーシップの具体化に合意した。
- 各国参加者は以下のとおり：NATO ルッテ事務総長、リトアニア・エストニア・チェコ・ラトビア・スロバキア・フィンランド・ウクライナ各国大統領、デンマーク首相、米国軍備管理・国際安全保障担当国務次官、スウェーデン国防相、ノルウェー外相、アイスランド首相府常任国務長官、駐 NATO ブルガリア常任代表、駐ルーマニア・ハンガリー大使。

● ツォイウ外相、ヘルシンボリ NATO 外相会合で欧州の防衛貢献強化とロシアの脅威に警鐘

- 5月21日から22日にかけてスウェーデンのヘルシンボリで開催された NATO 外相会合にツォイウ外相が出席し、東側側面の抑止力強化と対ウクライナ・モルドバ共和国支援を訴えるとともに、ロシアによるハイブリッド攻撃が今後一層激化すると警告した。

● ボロジャン暫定首相、モルドバ共和国訪問中にドローン事案を受け急遽帰国

- 5月29日、ボロジャン首相はモルドバ共和国を訪問し、サンドゥ大統領およびムンテアヌ首相と会談を行い、両国間の共同プロジェクトと協力強化について議論した。しかし前夜にルーマニアで深刻なドローン事案が発生したため、予定していた追加行事をキャンセルしてルーマニアに緊急帰国した。

● ルーマニア・ウクライナ関連経済ニュース

- ダン大統領、ルーマニア・ウクライナ共同ドローン生産の実現に自信
 - ◇ 5月12日、ダン大統領は、ポーランドのナブロッツキ大統領との共同記者会見で、ルーマニアとウクライナのドローン共同生産に自信を示した。EU 防衛調達プログラム SAFE の資金が同パートナーシップに充てられる。
- ルーマニア・ウクライナを結ぶティサ川橋梁、6月に開通見込み
 - ◇ 5月20日、ゼテア・マラムレシュ県議会議長は、ルーマニアとウクライナを結ぶティサ川に架かる新たな国境越え道路橋が6月に開通する見通しだと発表した。ウクライナ側の工事完了が条件となっており、完成後は両国の地域住民の往来や経済交流の促進が期待されている。現在の通行はシゲトゥ・マルマツィエイとソロトヴィノを結ぶ旧橋を通じて行われている。
- 政府、ルーマニア・ウクライナ間の道路整備投資を承認
 - ◇ 5月28日、ルーマニア政府はシレット・ポルブネ国境検問所を通じたルーマニア・ウクライナ間の道路接続強化を目的として、国道 DN2 の近代化と大型車両用駐車場の整備、さらにウクライナ側の M19 道路整備に関する技術・経済指標を承認した。財源には SAFE 資金および国家予算が充てられる予定である。

防衛・安全保障

(1) 事案・イベント等

【無人機飛来】

● 5月1日

- ロシアは、ルーマニアのトゥルチャ県北部と国境を接するウクライナ領内のドナウ川沿いの民間施設等に対し、無人機攻撃を実施した。
- ルーマニア国防省は、ウクライナ空域へ向かう無人機 9 機を検知したことを受け、03 時 36 分、トゥルチャ県北部住民に対して RO アラートを発出した。
- ルーマニア軍の監視レーダーではルーマニア領空侵犯は確認しておらず、RO アラートは 04 時 03 分に解除された。

● 5月2日 領空侵犯

- ロシアは、ルーマニア国境に近いウクライナのイズマイル方面に対し、無人機攻撃を実施した。
- ルーマニア軍の監視レーダーは、ロシアの無人機が短時間、トゥルチャ県キリア付近でルーマニアを領空侵犯したことを検知した。
- ロシアの無人機 20 機がウクライナのイズマイル方面へ飛行する中、02 時 00 分頃、フェテシュティの第 86 航空基地から、航空警察任務に就く F-16 戦闘機 2 機が緊急発進した。
- 02 時 03 分、トゥルチャ県北部住民に対し RO アラートが発出され、02 時 50 分に RO アラートは解除された。

● 5月7日 領空侵犯

- ロシアは、ウクライナ領内の民間施設を狙う一連の無人機攻撃を継続した。
- ルーマニア軍の監視レーダーは、ロシアの無人機が再びトゥルチャ県キリア地域において、短時間ルーマニア領空を侵犯したことを検知した。
- これを受け、08 時 37 分、フェテシュティ航空基地から F-16 戦闘機 2 機が航空状況監視のため離陸した。
- 08 時 40 分に RO アラートが発出され、無人機の通過を確認後、09 時 40 分に RO アラートは解除された。

● 5月19日

- ロシア軍は、ルーマニア国境に近いウクライナ側のインフラ施設および港湾施設に対し、無人機攻撃を実施した。
- これに対し、フェテシュティの第 86 航空基地から、航空警察任務に従事する空軍の F-16 戦闘機 2 機が 01 時 45 分頃に緊急離陸した。
- 02 時 05 分、トゥルチャ県北部に RO アラートが送信され、ウクライナのイズマイル港方面への攻撃を確認した後、02 時 57 分に RO アラートは解除された。
- ルーマニア軍の監視レーダーではルーマニア領空侵犯は確認しておらず、国内への被害も確認されなかった。

● 5月23日

- ロシアは、ルーマニアとの国境に近いウクライナのドナウ川沿いのインフラ施設等に対し、新たな無人機攻撃を実施した。
- ルーマニア軍の監視レーダーは、09 時 05 分頃、ウクライナ領空内をキリア港方面へ向かう無人機群を探知した。
- 09 時 28 分、トゥルチャ県北部の住民に対し RO アラートが送信され、警戒を呼びかけた後、09 時 53 分に RO アラートは解除された。
- 国防省によれば、今回の攻撃に伴うルーマニア領空侵犯や、落下物等による地上への影響は確認されなかった。

● 5月29日 ガラツィ市内アパートへ墜落、住民2名が負傷

- ロシアの「ゲラン 2」型無人機がルーマニア領空を侵犯し、ガラツィ市内の集合住宅の屋上に墜落し火災を引き起こした。
- F-16 戦闘機 2 機が 01 時 19 分にフェテシュティから緊急発進し、IAR-330 ヘリコプターも支援のため出動した。住民には RO アラートが送信された。
- この事案により住民 2 名が負傷し、ガラツィ県救急病院に搬送された。専門チームが現場から破片を回収し、検察当局による捜査が継続している。
- ロシアの無人機によるルーマニア領内の建物への被害は先月 4 月 25 日に発生しているが、負傷者の発生は今回が初となる。
- 国防省は、ロシアの無責任な行為を強く非難し、こうした事案はルーマニア国民の安全のみならず、NATO の集団安全保障にも危険を及ぼすものと指摘した。
- 本件を受け、ルーマニア外務省はロシア大使を召喚し、厳重に抗議するとともに、コンスタンツァのロシア総領事をペルソナ・ノン・グラータに指定し、72 時間以内の国外退去を求めた。また、同市所在のロシア連邦総領事館の閉鎖を通知した。

【バルトで無人機を撃墜】

● 5月19日 ルーマニア空軍戦闘機、エストニアで無人機を撃墜

- NATO 領空警備（バルト）任務に従事しているルーマニア空軍の F-16 戦闘機が、エストニア領空において不審な無人機を撃墜した。
- 11 時 00 分頃、ドイツのウエデム統合航空作戦センターの命令を受け、リトアニアのシャウレイ空軍基地から F-16 戦闘機 2 機が緊急発進した。
- パイロットは担当空域において不審な無人機を発見し、必要な安全手順および攻撃承認を経た上で、空対空ミサイルによりこれを撃墜した。
- 本件は、ルーマニア空軍分遣隊がバルト海地域の NATO 領空警備任務において、無人機を撃墜した初の事例であり、当該パイロットは後日ミルツァ国防大臣から勲章を授与された。

【人道支援等】

● 5月11日 ルーマニア空軍輸送機によるベルギーへの人道輸送任務

- ルーマニア空軍の C-27J スパルタン輸送機が、重度の熱傷を負った患者を救急搬送するため、オトペニからブリュッセルに向けて離陸した。
- 医療用にカスタマイズされた同機は、13 時 55 分に第 90 空輸送基地を出発し、緊急事態局の要請に基づき任務を遂行した。
- 飛行中および搬送中の医療措置は、SMURD の専門家および国防省の医療スタッフによって提供された。

【不発弾・弾薬事故】

● 5月16日 不発弾発見、無力化処置

- 国防省は、トゥルチャ県パルディナの無人私有地において、不発の非誘導型ロケット弾が発見されたとの通報を受け、警察、国境警備隊、情報庁などが現場周辺を封鎖した。
- 発見された弾体には約 2kg の爆薬が含まれており、同日夕方、国防省の専門家チームは、特別に準備した現場内の区域において、弾頭を制御爆破により無力化した。

- **5月18日 弾薬処分場での爆発火災事故、負傷兵のベルギー搬送**

- 軍が管理するボトシャニの弾薬処分場において、信号弾の廃棄作業中に爆発を伴う火災が発生し、軍人2名が重傷を負い、救急病院へ搬送された。
- 2名の容態を踏まえ、空軍機によりベルギー・ブリュッセルの「レジーナ・アストリッド」軍病院へ移送し、高度な治療を行うことが決定された。

- (2) **訓練・演習等**

- **動員演習 MOBEX AB-HD-26**

- 5月11日から15日にかけて、国民、経済および領土の防衛準備態勢を確認するための動員演習「MOBEX AB-HD-26」が、アルバ県およびフネドアラ県で実施された。
- 演習は国防省が内務省、国家予備役局、情報庁等と連携して管轄し、動員計画に含まれる両県の予備役の一部が部隊へ召集された。
- 5月13日には、アルバ県のミチエシュティ射撃場において、予備役兵による射撃訓練等が公開され、報道陣への取材対応が行われた。

- **NATO 戦略抑止演習 STEADFAST DETERRENCE 2026 への参加**

- 4月28日から5月13日にかけて、ルーマニアはノルウェーのスタヴァンゲルに所在する統合戦術センターで開催されたNATO 演習「STEADFAST DETERRENCE 2026」に参加した。
- 本演習は、欧州連合軍最高司令部が主導する集団防衛・抑止に関する主要演習であり、同盟国の計画プロセスや相互運用性の検証を目的とする。
- 今回は、NATO の「Audacious Training」の一環として、人工知能を活用した新たな戦略訓練および戦闘コンセプトが試験された。

- **多国籍演習 TROJAN FOOTPRINT 2026 における都市環境訓練**

- 5月21日、ルーマニア陸軍特殊作戦部隊司令部は、多国籍特殊作戦演習「TROJAN FOOTPRINT 2026」の一環として、市街地での潜入・行動訓練を公開した。
- 訓練はバカウ県コマネシュティ地区において実施され、ルーマニアおよびイタリアの特殊作戦要員で構成された混成部隊が、ヘリコプターや車両を用いた目標への接近要領を実演した。
- 同演習は、特殊作戦分野における NATO 最大級の演習であり、同盟国およびパートナー国から多数の特殊作戦要員が参加している。

- **ルーマニア軍部隊によるトルコ主催多国籍演習 EFES 2026 への参加**

- 4月20日から5月21日にかけて、ルーマニア陸海軍、特殊作戦部隊およびサイバー防衛司令部の分遣隊が、トルコ共和国で開催された多国籍演習「EFES 2026」に参加した。
- 同演習はトルコ軍が主催する大規模訓練であり、約50カ国から約10,400名の兵士が参加し、イズミルのドガンベイ射撃場等で水陸両用作戦や実弾射撃を実施した。

- **フォクシャニ・ゲート地域における多国籍演習 NOBLE BLUEPRINT 2026**

- 5月25日から27日にかけて、ルーマニア国内において、ナポリ連合軍統合司令部の調整下で多国籍演習「NOBLE BLUEPRINT 2026」が実施された。
- 本演習は、東部正面における機動計画および地域障壁計画の評価・検証を目的とし、部隊の移動、防御および対機動措置に関する共同訓練を行った。

(3) 主要な会談・会合等

● 国防相および参謀総長、NATO 軍事委員会委員長と会談

- 5月7日、ミルツァ国防相およびヴラッド参謀総長は、国防省本部において、公式訪問中のドラゴネ NATO 軍事委員会委員長（海軍大将）と会談し、7月にアンカラで予定されている NATO 首脳会合に向け、東部正面の防衛態勢強化や、領空に侵入する不法な無人機に対処する防空能力について協議した。
- また、NATO における防衛費目標を踏まえ、ルーマニアが防衛近代化および装備投資を重視していることが示された。
- なお、翌8日にはシビウの多国籍軍団司令部およびチンク訓練センターを訪問、合同訓練の状況を視察した。

● 国防相、EU 外務理事会に出席し無人機脅威への対処を提起

- 5月12日、ミルツァ国防相は、ブリュッセルで開催された EU 外務理事会の国防相会合にルーマニアを代表して出席し、ウクライナ支援および EU の防衛準備態勢について議論される中、同国防相は、ロシア無人機による EU 領空およびルーマニア領空への侵入事案について報告した。
- 同国防相は、2026年に入りロシアの無人機によるルーマニア領空侵入が複数回発生しており、その一部には爆発物を搭載したものが含まれると指摘し、EU および NATO として防空能力を共通課題として再整理する必要性を訴えた。

● 国防相、黒海・バルカン安全保障フォーラムでインフラの重要性を強調

- 5月13日、ミルツァ国防相は、ブカレストで開催された「第10回黒海・バルカン安全保障フォーラム」のパネルディスカッションにスピーカーとして出席し、道路や橋梁等のインフラは単なる経済開発手段ではなく、軍事的機動性および部隊展開能力を保证する防衛上の重要要素であると述べた。
- また、EU における軍事機動性向上の重要性に言及し、ルーマニアが関連予算や欧州枠組みを活用し、軍民両用インフラの整備に取り組んでいることを説明した。

● 国防相、三国間戦略対話会議で東部正面強化を議論

- 5月14日、ミルツァ国防相は、ブカレストの防衛展示会 BSDA 2026 の会場内で開催された「ルーマニア・ポーランド・ウクライナ戦略対話：東部正面強化」会議に出席した。
- 同会議では、三国間の安全保障関係者が出席する中、同国防相は、ルーマニアはウクライナの主権と領土一体性を支持しており、ウクライナの安全は欧州全体の安定と結びついていると表明した。
- バルト海から黒海に至る警戒態勢の強化、防衛産業協力、宇宙・軍民両用技術を含む産業面でのレジリエンス向上について意見交換が行われた。
- なお報道によれば、ロシアの継続的圧力に対し、ルーマニア、ポーランド、ウクライナの協力を通じて東部正面全体の防衛態勢を強化する方針が確認された。

● 国防相、BSDA 2026 において多国間および企業代表と会談

- 5月14日、ミルツァ国防相は、国際防衛展示会 BSDA 2026 の会場において、英国代表をはじめとする複数の外国代表および企業関係者と個別会談を行った。
- 英国代表とは、F-35 関連インフラ協力や対ドローン製品の実地試験等について協議したほか、フランス商工会議所が主催するパネルでは、仏防衛産業との協力の意義について言及した。
- また、宇宙を横断的な防衛能力として位置付ける円卓会議や、先端技術企業との会合にも出席し、ルーマニア国防省として新技術活用に前向きな姿勢を示した。

- **参謀総長、NATO および EU 軍事委員会会合に出席**

- 5月20日、ヴラッド参謀総長は、ブリュッセルで開催された NATO および EU 双方の軍事委員会会合に出席し、各国参謀総長らと防衛・抑止態勢について協議した。
- NATO 会合では、黒海地域の戦略的重要性を訴えたほか、スペイン、カナダ、英国の各軍参謀総長と、対ドローン防衛や東部正面の増援に関して個別会談を実施した。
- また、ルーマニア国内の F-16 トレーニングセンターにおけるウクライナ人パイロット訓練を含む支援や、EU と NATO の軍事メカニズムの相互補完性の必要性について述べた。

- **国防相および参謀総長、リトアニア公式訪問と無人機撃墜パイロットへの授勳**

- 5月22日、ミルツァ国防相およびヴラッド参謀総長は、ルーマニア空軍「カルパティア・バイパーズ」が展開中のリトアニア・シャウレイ空軍基地を公式訪問し、同国防相は、バルト海地域の防空任務中にエストニア領空で無人機を撃墜したルーマニアの F-16 パイロットに対し勳章を授与した。
- また、リトアニア国防相との二国間会談を実施し、対無人機技術の配備、偽情報およびハイブリッド戦対策、NATO 首脳会議に向けた協調等について意見交換した。

- **国防相、偽情報への耐性構築に関する欧州サミットに出席**

- 5月27日、ミルツァ国防相は、ルーマニア大統領府の後援により開催された「偽情報への耐性構築に関する欧州サミット」に出席した。
- サミットでは、ルーマニア国内における SNS を通じた誤情報の拡散や、国家および欧州統合への信頼を毀損するプロパガンダの状況について議論が行われた。
- 同国防相は、デジタル空間における偽情報は国境を越える脅威であり、一国のみで対処することは困難であるとして、プラットフォーム企業、市民社会および欧州パートナーとの連携の重要性を指摘した。
- なお報道によれば、欧州デジタルサービス法を踏まえた違法コンテンツ対策や、プラットフォーム上の警告表示等を含む制度的対応について、幅広い議論が行われた。

(4) 部隊・人員・装備品・防衛産業など

【BSDA 2026・防衛産業展示】

- **ルーマニア軍、国際防衛展示会 BSDA 2026 に大規模出展**

- 5月13日から15日にかけてブカレストの ROMAERO S.A. で第10回国際防衛展示会 BSDA 2026 が開催され、国防省からは陸海空軍、特殊作戦部隊等が出展した。
- 36カ国から550社以上が出展する中、ルーマニア軍は PIRANHA V 装輪装甲車、Gepard 対空システム、HIMARS、Patriot 防空システム、F-16 戦闘機等の主要装備を展示した。
- また、海軍の水中・水上無人機「ASMINES」や、CBRN 研究センターによる無人プラットフォームを用いた漂流機雷中和技術等も紹介され、黒海・ドナウ川方面の実際の脅威環境を意識した展示内容となった。

- **国防省、韓国国防技術品質庁と品質保証 MOU を締結**

- 5月14日、BSDA 2026 の会場において、ルーマニア国防省と韓国国防技術品質庁との間で、防衛製品およびサービスにおける相互品質保証に関する了解覚書が締結された。
- 本 MOU により、今後両国間で調達される防衛装備品・サービスについて、政府レベルでの品質保証サービスを相互に提供する枠組みが整備された。
- 近年、ルーマニアは韓国製自走砲、戦車、戦術装甲車等を含む装備近代化を進めており、本 MOU は、韓国との防衛装備協力を制度面から支えるものと位置付けられる。

【SAFEプログラム・防衛調達】

● 国防省、SAFEプログラムの調達交渉の進行状況を公表

- 5月11日、国防省は、欧州の防衛能力構築に関連するSAFE枠組みに基づく公的調達プロセスが、法令に従い、公正かつ独立して進められていると公表した。
- 同プログラムは、国家安全保障最高評議会および議会の事前承認を受けており、兵器総局は承認済みの複数事業者に対し、交渉開始の招待状を送付した。
- 国防省は、公的資金の効率的かつ適切な執行を重視し、調達価格や装備仕様が国防上不利な条件となる契約は締結しないと説明した。

● 国防省、艦艇調達 DAMEN 社提案との技術仕様の差異を説明

- 5月12日、国防省は、SAFE枠組みを通じた軍用艦艇の調達に関し、DAMEN社が提示した提案と、海軍が要求した技術仕様との間に差異があると説明した。
- DAMEN社のMOPV 2600艦モデルについて、対潜戦能力、火器管制、CBRN対応、艦内指揮システム、近接防衛システム、近接ミサイル、魚雷発射システム等の点で、海軍の要求仕様を十分に満たしていないとされた。
- 国防省は、単純な価格比較は装備構成の差異を反映しておらず、黒海における脅威環境に対応するためには、要求された任務能力を備えた艦艇調達が必要であると説明した。

● 国防省、EUによるSAFEプログラム資金援助合意の承認を歓迎

- 5月21日、国防省は、欧州委員会がSAFEプログラムに基づくルーマニア向け資金供与合意案を承認したことを歓迎し、議会による迅速な批准を呼びかけた。
- ルーマニアは同枠組みにより166億ユーロの資金供与を受ける見込みで、ポーランドに次ぐ第2の受益国で、国防省は、2026～2030年に約96億ユーロ規模、計21件の装備事業（防空、対ドローン防護、装甲車両、艦艇、弾薬、無人機等）を進める。

● 国防省、新型歩兵兵器および光学照準機器の調達方針を説明

- 5月27日、国防省は、ルーマニア陸軍用の新型NATO型歩兵用個人兵器および光学・光電子照準装置の調達プログラムの進捗状況と調達区分について説明した。
- 新型アサルトライフル等の個人歩兵武器プログラムは、欧州委員会に承認されたルーマニアのSAFE枠組みに含まれ、入札および試験手続きが進められている。
- 一方、これに装着する昼夜間任務用の高度な光学・光電子照準機器や暗視装置については、SAFE枠組みとは別の国家予算により、並行して調達手続きが進められている。

● 国防省、SAFEプログラムに基づく複数の大型防衛調達契約を締結

- 5月28日から29日にかけて、国防省は、SAFE枠組みに基づく複数の重要な装備・兵器供給契約に署名した。
- 5月28日には、独Quantum Systems社製Mini UAS Class I、イタリアIVECO社製の多機能車輪式輸送トラック、MISTRAL携帯式防空ミサイルシステム、Gepard対空システム用35mm HEI-T弾薬等に関する契約が発表された。
- さらに5月29日には、独ラインメタルグループ等との間で、歩兵戦闘車および派生型298両、SKYNEX・SKYRANGER 35・Millennium等の近接防空／対ドローン火力システム、海軍哨戒艦2隻および潜水土用介入艇2隻、35mm AHEAD弾薬等の大規模契約が締結された。
- これらの契約により、ルーマニアは地上戦力、近接防空火力、対ドローン能力、黒海における沿岸・哨戒能力、対空弾薬備蓄の各分野において、大規模な近代化を進めることとなる。

【F-35・航空戦力近代化】

● ルーマニア議会、F-35 戦闘機調達に向けた特別法案の審議を開始

- 5月中旬、報道によれば、ルーマニア議会下院において、米国からF-35A 戦闘機 32 機を調達するための特別法案の審議が開始された。
- 本法案は、総額約 65 億ドル規模の調達資金を確保し、ルーマニア空軍を第 5 世代戦闘機体制へ移行させるための法的基盤を提供するものとされる。
- 空軍は 2030 年代初頭の配備を目指しており、既存の F-16 戦闘機との連携を円滑にするためのインフラ整備も併せて検討されている。

【人員・待遇・組織基盤】

● 国防省、統一給与法草案に対する軍人・文官の待遇保護方針を表明

- 5月26日、国防省は、労働省が提示した新たな国家統一給与法案の草案に関し、軍および防衛分野に勤務する軍人・文官の収入が不当に減少することを防ぐため、分析を開始した。
- 労働省での説明会を受け、国防省としても現役軍人および技術職文官の報酬制度に関する草案内容を検証し、今後の省庁間協議に向けた提案および意見の取りまとめを進める。
- 国防省は、厳しい安全保障環境下において、高度な訓練と専門性を有する人材を防衛分野に維持するため、適切な給与水準と職業的魅力的確保が不可欠であると主張した。

我が国との関係

(1) 二国間関係全般

● 片江大使によるディミアン教育・研究相表敬

- 5月18日、片江大使は、ディミアン教育・研究相を表敬訪問し、ルーマニアにおける日本語教育、大学間交流、科学技術・研究開発や、日本政府によるノン・プロジェクト無償資金協力見返り資金を元にルーマニア教育・研究省が全国 60 の高校に IT 機材を供与したプロジェクトについて意見交換を行った。



● 片江大使によるクライオヴァ市長との面談

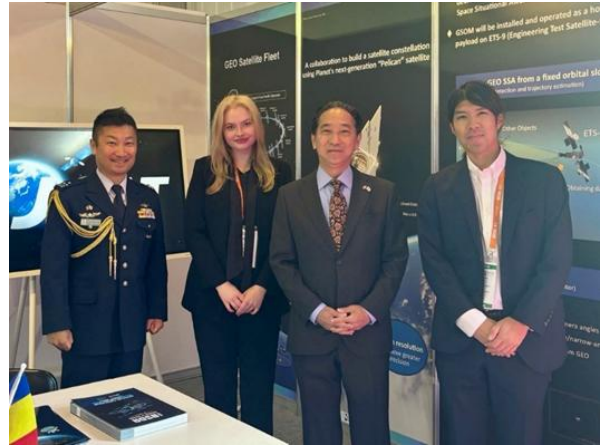
- 5月22日、片江大使は、ヴァシレスク・クライオヴァ市長と懇談した。片江大使は、同市で開催されているシェイクスピア・フェスティバルが、長きにわたり、日・ルーマニアの舞台芸術を通じた文化交流の場となっていることを歓迎し、また、両者は今後のクライオヴァ市と日本とのビジネス交流の可能性についても協議した。



(2) その他

● 片江大使による国際展示会「BSDA2026」での日本企業ブース訪問

- 5月13日から15日にかけてブカレストのROMAEROで開催されたBSDA2026（黒海防衛・航空宇宙・安全保障国際展示会）に、確認する限り初めて日本法人企業としてスカパーJSAT 株式会社が出展を行った。
- 13日の展示会開会式に先立ち、片江大使は、日本企業の海外展開支援の一環として同社ブースを訪問し、低軌道（LEO）地球観測衛星コンステレーション構築や宇宙状況把握（SSA）に関する最先端の衛星を活用した計画の説明を受け、日ルーマニア協力の可能性について有意義な意見交換を行った。



● 片江大使による WHO ルーマニア及び Good Neighbors Japan による共同事業のキックオフミーティングへの出席

- 5月26日、片江大使は WHO ルーマニア事務所主催の「ルーマニアにおけるウクライナ避難民への継続的なメンタルヘルス支援」事業キックオフイベントに出席し挨拶を実施した。
- 本事業は、日本の補正予算を使い、WHO ルーマニア事務所と日本の NGO・Good Neighbors Japan が連携し、ルーマニアに滞在するウクライナ避難民の社会心理的ケアに取り組むもの。
- 片江大使からは、このような日本の NGO と国際機関の連携による新しいモデルでのウクライナ避難民支援の意義を強調し、同事業への期待を表明した。また、WHO ルーマニア事務所及び GNJP からは、支援が減少するなか、日本政府及び日本国民による支援は格別重要なものであるとして深甚なる謝意が表明された。

